

こどもの城 ニュース

KODOMO NO SIRO
NEWS

2008・9・1 No. 197 発行 / (こどもの城) 広報部 ☎03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
http://www.kodomonono-shiro.jp

あざやかなエスニックからの布地のように見える。こいピンクの花びらと黄緑、緑の大小の葉の組み合わせがみごとだ。昨夜の強い雨で、むりやり散らされてしまった。まだ枝についていると思っただけで、道路のすみの水たまりのなかで色も形も若々しいままに生きている。

左すみにある目玉のように見えるものは、しずくが落ちてつくった「はもん」。いっしゅんの変化をとらえる。大雨の後に目にするふつうの風景。ここまで視野をせばめて、近づいて見るとは少ない。せつかくの美しさに気づかず、見落としてしまっている。
(写真:中根静男/文:たかべ としき)



【こどもの城】の「親子教室」

お父さんもいっしょに “豊かな子育て”を——

【こどもの城】は、子どもたちのすこやかな“育ち”を支える活動だけではなく、さまざまな形で“子育て”を応援する活動を行っています。保育研究開発部で行っている「親子教室」もその一つ。開館当初は、「母子教室」という名前で行っていましたが、時代とともに積極的に子育てにかかわる父親がふえてきて、平成6年(94年)から「親子教室」と名前をかえ、対象も「母と子」から「母と子と父」にして現在にいたっています。活動内容も、参加する家族の声にあわせて少しずつ変わってきています。最近では、家族(父親、兄弟姉妹など)で楽しむプログラムも取り入れられています。



親子でゆったり、パネルシアター

家族参加のファミリープログラムをとおし “子育て”の楽しさ、よろこびを感じてほしい

「親子教室」は、保育のスタッフと親子遊びをしたり、小児科医師や管理栄養士、臨床心理士などの専門家を囲んで学んだり、みんなで子育てについて話し合ったり——同い年の子どもをもつ家族が集まって、子育ての楽しさ、よろこびを感じてほしいと願って行われているプログラムです。

1歳児親子を対象とした、全10回のコースで、定員は16組。そのうち6回はお母さんと子どもを対象にしたプログラムで、月曜日(10時~13時)に開催。残りの4回は、お父

さんと兄弟姉妹も参加できる“ファミリープログラム”。家族のみなさんが参加しやすいように土曜日(10時~12時)に行っています。

前半は、お母さんと子どもを対象にしたプログラムが中心。16組の親子の出会いからはじまって、音楽にあわせた表現遊びや身近にある新聞紙を使ったダイナミックな遊びを行います。親子のふれあいを楽しむと同時に、家族のふれあいが広がっていきます。管理栄養士を囲んで“食”について考えたり、臨床心理士と子育ての悩みを語り合う回もあります。少人数なので、不安に思っていることや悩みごとを気軽に話し合うことができます。専門的な立場からのアドバイスも受けながら、子育てをみなおしていきます。同じような不安や心配をかかえているのが、自分だけでないことが分ると、少しほっとします。子育ての“なかま”です。気持ちも楽になります。



おひざの上で“手遊び・歌遊び”

参加した人の感想から 子育ての楽しさを感じるようになった

「親子教室」では、最初と最後にアンケートをお願いしています。そこから、子育て中のお母さん、お父さんのすがたをうかがい知ることができます。

参加の理由を聞いてみると——「同年齢の子どもとふれあわせたい」「多くの親子とふれあう機会をもちたい」「親子ともども、教室をつうじて友だちができるようになりたい」などのように、“ふれあい”の場を期待するものがあります。さらに、「親子で楽しく学びながら成長できる場としたい」「日常生活をより楽しく過ごせる場としたい」「父親も参加できるので、いっしょに子育てを楽しむ機会にしたい」と“楽しく”をのぞむ声が目につきます。

子育てを楽しみたいという、積極的なお父さん、お母さんがふえているのかもしれない。「親子教室」は

そんなお父さん、お母さんに“子育ての楽しさ”を伝えていきたいと考えて、運営されています。

修了後の感想にも「母親はみんな同じ悩みをもっていることを知り、気持ちが前向きになって、子育ての楽しさを感じるようになった」というお母さん。お父さんも「夫婦でしつけや教育について、話し合えるようになった。また、妻の楽しそうな顔を見て、こころがなごんだ」「家族みんなで通ったことで、子どもといっしょになしとげた、という達成感が子育ての自信につながった」という声があります。“母と子と父”で子育てすることの楽しさ、よろこびにめざめたよう

※「親子教室」は、年3回(5月、9月、1月)開講しています。詳しくは、保育研究開発部【03-3797-5669】へ。



粉から作る“小麦粉粘土”

緑、黄の粘土ができあがり。2家族でひとつの色を作り、できあがったものを取りかえっこ。色をふやします。

いろいろな色の粘土がそろったら粘土遊び。お父さんも粉だらけになって、子どものリクエストにこたえながら、いろいろなものを作っていきます。子どもたちも、いっしょに遊んでくれるお父さんを見てうれしそうです。しばらくすると、テーブルの上にはさまざまな作品が並びます。最後に家族ごとに、説明をくわえながら作品を紹介しあいます。

1回目のファミリープログラムでは、それぞれのお父さんに自己紹介をかねて、子どものころの思い出などを話してもらったりします。最初は、とまどうようですが、子どものころのことを思い出しながら、自分がどんな子どもでどんな遊びをしていたかを話してくれます。妻であるお母さん

にとっても、初めて聞く話だったりするようで、夫婦で子育てを考えるきっかけになるようです。

遊びをとおして親子のふれあい、 家族のふれあいをひろげます

ファミリープログラムは、コース後半に組まれています。小麦粉粘土を作って粘土遊びをしたり、「じゃんけん列車」や「オセロ風ひっくり返しゲーム」などのゲームを楽しんだり、16家族がいっしょになって親子のふれあい、家族のふれあいを広げていきます。

取り上げているプログラムは、子どもだけでなく、おとも楽しめるようなものを選んでいきます。

小麦粉粘土のプログラムでは、粉から作りはじめます。水をまぜながら、子どもも大人もいっしょになってこねていくと、赤、青、



家族みんなで“運動遊び”

お父さんといっしょに参加するプログラムも

お父さんなど、ファミリーで参加するプログラムが組み込まれていることが「親子教室」の一つの特色になっています。「お父さんがいっしょに参加する活動のときは、お母さんは、ほっとしているのか、おだやかな顔をしています」と保育のスタッフ。いっしょに子育てをしてくれる“お父さん”の存在は大きいようです。

ファミリープログラムには、小児科医師を囲んで子育てと健康について考える回もあります。夫婦で子どもの成長にあわせた子育てを考える場になっています。

最終回を前に、お母さん同士が自由に子育てについて話し合う“グループディスカッション”の時間があります。毎回、時間が足りないほど、熱心な話し合いが行われます。親子遊びやファミリープログラムをとおして、たがいが分かりあえるようになり、本音で話し合えるようになったからなのかもしれません。

参加した理由のなかに「子育ての悩みをほかの親と共有したい」「母親同士で話をしてリフレッシュしたい」などがあります。そんな思いが、活発な“グループディスカッション”につながっているようです。

10回目の修了時には、それぞれに感想を話してもらってから記念写真。家族の思い出の一つにしてもらっています。

母親同士で子育てについて 自由にディスカッション



修了式には、家族ごとに“修了証”がおくられます

富士通は、人と地球が
共生できる社会のために
700万トンのCO₂削減を
めざします。

FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

※1: 杉の木5億本分が1年間に吸収するCO₂量に匹敵 ※2: 2010年までの累計削減量

